ゆとり教育を継続するべきか否か

2005 年 12 月 21 日
経営学部 経営学科
F105254 中村 謙太朗

１、問題の背景

ゆとり教育（ゆとりきょういく）とは、学習者に学ぶことに対する苦痛や焦りを感じさせず、学習者自身の多様な能力を伸張させることを目指す教育である。主に、初等教育や中等教育において、いわゆる「詰め込み教育」に対する改善策として掲げられた教育のあり方である。時間的ゆとりを確保して、子ども達が伸び伸び学べる環境をつくろうとした。そして、新学習指導要領では、公立学校の週５日制の完全実施・総合的な学習の時間の新設に伴い、2002 年から小中学校の教育課程の約３割が教科書から削減された。

しかし、その一方で国内外の学力調査を通じて、子ども達の学力が低下しているという事実が明らかになり、ゆとり教育が見直されることになった。

２、報告の目的

新聞・ニュースなどでは数年前から教育制度の見直しについて報じられている。関連の報道を見る度に、何が問題となっているのか、自らが受けてきた教育がどのように変わったのか、変わっていくのかを知りたくなった。

これまでの教育スタイルとの違いと、それによる影響をメインに、ゆとり教育をこのまま継続すべきか否かを考察していく。

３、問題の概要

小中学校の教育課程に、新学習指導要領が導入された。この指導要領では教育内容の約３割が削減されている。削減された内容には、純粋に削除されたものと、中学・高校に移行されたものがある。また、2006 年度から「発展的な学習の内容」として削減・移行された内容の一部が教科書に戻ってくる。最初に算数・数学の削減例と移行例の一部を紹介する。

小学校での削減内容（カッコ内は旧課程での履修学年）

① ４桁同士の整数の加減（３年）
② ３桁×２桁の筆算（３年）
③ ３桁×３桁の筆算（４年）
④ 四角形の相互関係（４年）
⑤ 小数の加減乗除（４年）
⑥ 帯分数を含む加減（５年）
⑦ 容積（５年）
⑧ 帯分数を含む除算（６年）
⑨ 表やグラフの工夫（６年）

一時期話題になった「円周率が３になる」という騒動の実態は⑤と関連がある。つまり、小数点第２位以下の計算が削除されたので、円周率「3.14」をかけるときは、電卓で行うか、「３」で近似して計算することになった。

中学校での削減内容（カッコ内は旧課程での履修学年）

① 図形の平行・回転・対称移動（１年）
② 立体の切断、投影（１年）
③ A＝B＝C の形の連立方程式（２年）
④ 文字の置き換えによる因数分解（３年）
⑤ 平方根表（３年）

削減された内容は高等学校での教育において必要なものばかりだ。高校での指導においては、教師は生徒にこれらの知識が無いことを前提に指導しなければならない。

中学校から高校に移行する内容（カッコ内は旧課程→新課程）

① 数の集合と四則（１年→数学Ⅰ）
② １元１次方程式（２年→数学Ⅰ）
③ 三角形の重心（２年→数学Ａ）
④ ２次方程式の解の公式（３年→数学Ⅰ）
⑤ 相似な図形の面積比・体積比（３年→数学Ⅰ）

授業日数が減少したにもかかわらず、このような内容が移行されたため、高等学校での教育課程はゆとり教育が始まる以前にも増して過密したものになっている。

次に、発展的な学習の内容として教科書に復活する中学校数学の学習内容を一部紹介する。（カッコ内は学年）

① 図形の平行移動・対象移動・回転移動（1 年）
② 立体の切断、投影（1 年）
③ A=B=C の連立方程式（2 年）
④ 2 次方程式の解の公式（3 年）
⑤ 相似な図形の面積の比（3 年）

発展的な学習の内容として戻ってくる内容は指導が義務付けられていないため、学校や教える教師によって習う生徒と習わない生徒に分かれる可能性がある。また、教科書によって扱い方が異なっており、演習問題を用意して学力の定着を目指すものから、学習者の興味を引くための紹介程度にとどまるものまで様々だ。

４、ゆとり教育をとりまく状況からの考察

ここでは、ゆとり教育に対する世間の評価や、新課程導入前後の学力調査の結果を明記し、それについて考察する。

第 51 回ネットモニターアンケート集計結果

実施期間 平成 17 年 3 月 10 日(木)～3 月 16 日(水)
対　　象 124 人
回 答 数　92 人
回 答 率　72.4%
Q2～Q4 は複数回答可

Q1、ゆとり教育についてどう思いますか？

A1、良いと思う 7％　悪いと思う 67%　どちらともいえない 25%　不明 1％

Q2、Q1 で「良い」と答えた方は、どんなところが良いと思いますか。

A2、語学や計算以外に人生に必要な勉強ができる 10 人
子どもが自ら学びたいことを学べる 6 人
家庭でふれあう時間を多く持つことができる 4 人
競争の無い教育の方が子どものために良い 1 人

Q3、Q1 で「良くない」と答えた方は、どんなところが良くないと思いますか。

A3、学力の低下を招く 56 人
塾に通って学力を補う必要が生じ、ゆとりとは言えない 48 人
学校の裁量によって、学校間で学力の差が出る 35 人
総合的な学習の時間のあり方に疑問を感じる 31 人
競争の無い社会では、社会に出てから通用しない 29 人
その他 1 人

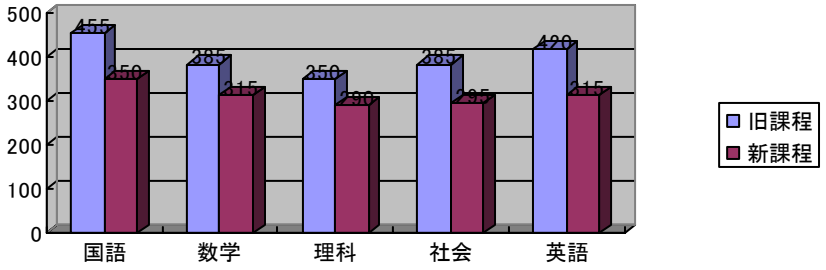
Q4、平成 14 年から完全週 5 日制となりましたが、子ども達の生活はどのように変わりましたか。（社会的見地を含む）

A4、塾に通うようになった 33 人
時間を持て余すようになった 31 人
1 人で遊ぶ時間が増えた 22 人
家族と遊ぶ時間が増えた 20 人
習い事をするようになった 18 人
友達と遊ぶ時間が増えた 15 人
以前と変わらない 8 人
地域活動に参加するようになった 7 人
趣味を楽しむ時間が増えた 7 人
勉強する時間が増えた 6 人
わからない 10 人
その他 8 人

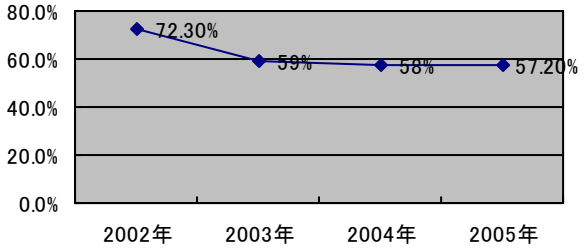
アンケートの結果、ゆとり教育が世間にほとんど支持されていないことがわかった。授業日数の減少や教育内容の削減などから、学力の低下が不安視されている。それを補うために塾に通うというケースが「ゆとり」として受け取られておらず、かえって混乱を招いているようだ。しかし、ゆとり教育が始まってから家族と遊ぶ時間が増えたり、習い事をしたりと、学校の勉強では身につかないことを学ぶチャンスが広がったとも言える。

次に、新課程導入後の授業時間や子ども達の学力の変遷について考察する。
Benesse『「脱ゆとり」って何？』より

中学校３年間の授業時間



中学生の英単語穴埋め問題正解率



世界の中での日本の中学生の学力順位			
	2000年		2003年
読　解　力	８位	→	14位
数学的素養	１位		６位
科学的素養	２位		２位

まず、英語・国語の約 100 時間の削減をはじめ、中学での学習時間が大幅に減らされたことがわかる。数学の学習時間も、以前に比べて約 70 時間（週 2 時間分）も減らされている。これは総合的な学習の時間の導入や、完全週 5 日制の実施に伴うものである。

そして、時間的ゆとり確保のために行った授業時間の削減は上記の図・表から読み取れるような、学力の低下という大きな代償をもたらしたと考えられる。

５、総合的な検討と結論

そもそも、ゆとり教育は、子ども達は少なからず「学びたい」という意欲をもっているので、学習のハードル（到達度）を下げれば、全員が飛び越えられる。学習内容を削減すれば全員が理解できるようになる。という考えを前提に実施されている。しかし、実際の授業の場面では、ハードルを下げても飛び越えられない生徒がでてくるだろうし、到達水準が下がったので全体の努力の度合いも低下したと考えられる。

さらに、学習過程が削減されたことだけでなく、移行されたことによって発生する問題がある。

例えば、３で示した小中学校での指導内容のスリム化、高等学校での過密化を図示するとこのようになる。新課程の「頭でっかち」といえる構図に高校生・教師が対応できるのか議論されている。

数学を例に挙げると、高等学校では中学校の数学よりも具体性が失われるため、生徒にとっては内容的に急に難しくなる印象がある。現在は新学習指導要領のもとで中学校時代にゆっくりと学んできた生徒が高等学校に入学してくる。急激な授業のスピードアップについていけない者は少なくないと思われる。

このような状況は他の教科でも考えられ、最悪の場合は次のような事態が起こると懸念されている。

ゆとり教育でのんびり義務教育を過ごす
↓
基礎学力が十分に付かないまま高校に入学
↓
高校での学習内容が多すぎて対応できない
↓
勉強についていけない生徒が増加する

また、社会にはゆとり教育に対応した何らかの動きがある。

例えば、昨年から現在にかけて「教育」に関連のある番組がいくつかスタートした。番組名と放送内容は下記とおり。

*平成教育予備校（フジテレビ系）
パネラー陣が有名私立小学・中学校の入試問題などにクイズ形式で解答する。浅はかな知識では答えられない問題が多数出題されている。「平成教育委員会」の姉妹番組。

*世界一受けたい授業（日本テレビ系）
毎回の放送は「先生」というかたちで各界の著名人が登場し、出演者に対して「授業」を行う。サイエンスプロデューサーの米村でんじろう、弁護士の橋本徹などがパロディーを交えた授業を展開する。

このような番組がスタートした背景には、放送局の「教育のあり方が問題になっている今なら数字が取れる」という狙いがあるかもしれないが、子ども達の学ぶことに対する関心や意欲を引き出すという効果が期待できる。

ゆとり教育に対応した他の動きとして、土曜日に自主参加の補習を行う進学校（公立も含む高校）が増加しているらしい。PTA などの保護者と学校側が話し合って、通常課程とは別の授業料を保護者が支払うというかたちで実施されているとのことだ。

しかし、通常課程と別の授業料を支払ってまでして、休みになった土曜日に登校していては、完全週 5 日制にしたゆとりのメリットが分からなくなる。

確かにゆとり教育が始まってから、趣味や習い事に費やす時間的なゆとりができたというのは納得できる。他に、もう少し様子を見てから継続するか否かを判断すべきという考えをもっている人もいるだろう。

しかし、総合的な検討をすると、３で記した高等学校のカリキュラムの過密化が深刻であること、４で記したように新課程導入の前後で明確な学力の低下が見受けられることから、子ども達や家庭に精神的なゆとりが無くなったと思われる。この問題は時間的ゆとりを考慮しても目をつぶることができない。加えて、これ以上現行を見守っても、学力向上や教育に対する安心感は得られないと４から判断し、私はゆとり教育を継続すべきではないという結論に達した。

６、私見

今回のレポートを作成したことで、ゆとり教育という教育スタイルは効率が悪いと私は感じた。詰め込み教育の反省から始まった教育路線であるが、教育内容の簡素化は子ども達の学習に対する意欲を低下させ、結果的に全体のレベルダウンを引き起こしたと考えられる。その原因は、授業時間が減少したことにより、「反復練習」にあてる時間が無くなったからではないだろうか。漢字の書き取りや数学の演習問題は教わるだけではなかなか身につかない。自分で解いて初めて自分の力になると思う。

「詰め込みこそ教育だ」とは言いきれないが、教える量を減らして子ども達の学問への興味・関心を高めて、自分で考える力を身に付けさせようという考えが甘かったと私は考える。

また、上記に記した通り、削減された内容が見直されて来年度から復活することになっている。このような動きがまだあり得るので、今後の教育のあり方にも注目していこうと思う。

７、参考文献

インターネット

＊フリー百科事典『ウィキペディア』（http://ja.wikipedia.org/wiki）

＊「学力低下」問題と新学習指導要領
（http://www.bun-eido.co.jp/textbook/sjournal/sj23/sj231422.pdf）

＊ぷらり 商工会議所案内ネットモニター制度
（http://www.kawaguchicci.or.jp/net-monitor/05.03.10.htm）

文献

＊ 「脱ゆとり」って何？ ベネッセコーポレーション発行